

カタカナ語における英語品詞と日本語品詞との関連性について —402語の「する」付加される英語借用語の語彙範疇化—

On the Relationship between English and Japanese Parts of Speech in Katakana Words: The Lexicalization of 402 “*suru*”-Appended English Loanwords

野中 博雄

要 約

本論文は、「英語借用のカタカナ語」について、英語の品詞概念が借入後の日本語での品詞概念に影響するとの仮定に基づき、「する」を付加されて日本語に借用される英語の日本語での語彙範疇を考察したものである。

筆者は、「コンサイスカタカナ語辞典」(第2版, 三省堂, 2004)より、「する」を付加されて英語から借用した402語を抽出し、英語の品詞を、『プログレッシブ英和辞典』(第4版, 小学館, 2006)で確認し、10のカテゴリーに分類した。それらの日本語での統語的特徴を観察し、英語借入語が日本語のどの品詞として扱われるべきかの考察を試みた。

結論として、『英語借用語のカタカナ語の「Xする構造」「形容詞＋X構造」「Xをする構造」における「X」の日本語語彙範疇については、英語品詞の「動詞性」「名詞性」の影響を受け、「動詞性」「名詞性」を持った日本語動名詞としての統語的特徴を持つカタカナ語となる』とした。

キーワード：英語借用語, 「Xする構造」, 「形容詞＋X構造」, 「Xをする構造」, 日本語動名詞

はじめに

英語がカタカナ語として日本語に借入される時、概してその原語の品詞を保とうとする傾向がある。例えば英語名詞は名詞として日本語語彙範疇化され、英語形容詞は形容詞として日本語語彙範疇化される。英語名詞借用の場合は主格助詞「が」、目的格助詞「を」、対象格助詞「に」、所有格助詞「の」などを取り、統語的には日本語名詞と同じように振る舞う。下記に英語名詞の借用例を示す。

- (1) a. リボンがかわいい (主格)
- b. ノートを買う (目的格)
- c. ドアに貼る紙をする (対象格)
- d. ピアノの前に座る (所有格)

また英語形容詞借用の場合は、「な」を付与して形容詞化され、「に」を付与して副詞化される。また「だ」を付与して形容動詞化される。日本語形容詞においても「きれいな花」「きれいに揃える」「花がきれ

いだ」のように形容詞化、副詞化、形容動詞化される。下記に英語形容詞の使用例を示す。

- (2) a. ナイーブな性格だ (形容詞化)
- b. アクティブに活動する (副詞化)
- c. 彼は大変クレバーだ (形容動詞化)

では英語名詞“error”“advice”より借入した「エラーする」「アドバイスする」などの「エラー」「アドバイス」の日本語での品詞はどう扱うべきなのか。「X」を英語より借入されたカタカナ語とした場合、日本語の「Xする構造」「形容詞＋X構造」「Xをする構造」で使用される英語品詞と日本語品詞との関係はどうであろうか。『コンサイスカタカナ辞典』(第2版, 三省堂, 2004)によると「Xする構造」が可能なカタカナ語は402語ある。原語である英語が単独の品詞分類となる語は、「動詞(119語)」「名詞(40語)」「動名詞(26語)」「形容詞(1語)」「副詞(1語)」となる。その他複合の品詞分類となる語は、「英語動詞複合分類(112語)」「英語名詞複合分類(86語)」「形

容詞複合分類 (12 語)」「英語前置詞複合分類 (3 語)」「英語副詞複合分類 (2 語)」となる。下記に例を示す。

- (3) a. エンジョイする (動詞)
- b. エントリーする (名詞)
- c. プログラミングする (動名詞)
- d. ウォーミングアップする (形容詞)
- e. アヘッドする (副詞)
- f. アピールする (名詞・動詞)
- g. アシストする (動詞・名詞)
- h. マイナスする (前置詞・形容詞・名詞)

上記 3a から 3e までは原語の品詞分類が単独であり, 3f から 3h までは複合となる。単独分類は 5 種類あり, 複合分類は実際には 24 種類あるが, 英語品詞の最初に記載される品詞 (使用頻度の高い語) を優先すると「英語動詞複合分類」「英語名詞複合分類」「形容詞複合分類」「英語前置詞複合分類」「英語副詞複合分類」の 5 種類の複合分類にまとめられる。

「X する構造」をとる語の内, 「X をする構造」「形容詞 + X 構造」において使用が可能な語と, 不可能な語が存在する。次例を示す。

- (4) a. 無意味なリカバー * リカバーをする
- b. 定期的なトリミング トリミングをする
- c. 完璧なテスト テストをする
- d. * 十分なエミット * エミットをする

4a は英語動詞の “recover” が日本語に借用された例で, 「形容詞 + X 構造」では使用可能だが「X をする構造」においては使用不可となる (* マークで表す)。一方, 4b では英語動名詞の “trimming” が「形容詞 + X 構造」「X をする構造」の両方において使用可能となる。また 4c の “test” は英語名詞・動詞借用であるが, 「形容詞 + X 構造」「X をする構造」の両方において使用可能である。4d の “emit” は 4a と同じ英語動詞借用だが「形容詞 + X 構造」「X をする構造」の両方において使用不可能となる。これらの違いは何に起因するのであろうか。この理由を考察するのが本論文の目的である。

ここで「X する構造」での「X」の品詞の取り扱いについて先行研究を概観しておきたい。「～をする構造」(ここでの「～」は英語借用語「X」と区別するために使われており, 漢語やその他の言語の借用も含まれる)は軽動詞文と呼ばれており, 漢語の借入の時

も同じ現象が指摘されている。この場合の「～」は名詞として扱うべきなのかそれとも他の品詞として扱うべきなのかの疑問がある。

石野 (1983) は『漢語の場合は, 「〇〇する」は原則としてすべて「〇〇をする」に還元される。「〇〇」は常に名詞だと考えていいだろう』¹⁾と述べている。一方, 影山 (1993) は統語的特徴から名詞と動名詞を区別している。次に引用する。

- ① 動名詞は「する」で動詞化できる。通常の名詞は動詞化できない。
- ② 動名詞は「方法」と結合する。動詞連用形や名詞は結合できない。
- ③ 「人 (じん)」, 「人 (にん)」との結合において, 「人 (じん)」と結合するのは名詞であり, 動名詞は原則的に「人 (にん)」と結合する。
- ④ 「用」との結合において, 名詞, 動名詞には付くが, 動詞の連用形には付かない。
- ⑤ 尊敬語「お／ご～になる」や依頼表現「お／ご～下さい」の構文において, 動名詞と動詞連用形との共通性がある。
- ⑥ 「～上手」との結合において, 動詞と動名詞は適格な表現となるが, 名詞とは不適格になる²⁾。

さらに野中 (2008) は「X する構造」で日本語語彙範疇化される英語借用語の日本語での品詞を明らかにするために, 英語借用語の英語品詞を特定し, また英語借用語と日本語対応動詞 (和語), 日本語対応漢語 (漢語) を日本語動名詞特性の観点から類似点, 相違点を考察している。影山 (1993) の指摘した日本語動名詞の特徴である「～する」「～方法」「～人 (にん)」「～人 (じん)」「～用」「～上手」, 尊敬語表現「お／ご～になる」, 依頼表現「お／ご～下さい」の 8 項目について, 英語動詞借用語, それに対応する和語, 漢語を比較し, 「英語動詞借用語は日本語動名詞に近い語形成, 統語的特徴を備えるが, 結合する語によっては, 語種選択制限や語彙選択制限が働くものといえる」³⁾と観察している。

また野中 (2009) は, 「X する構造」「X をする構造」の可能な英語借用語の英語品詞と日本語として借用された後の日本語品詞との関連性があると推定し, 原語の品詞分類と, 「X する構造」と「X をする構造」の語数分析をしている。その結果, 以下の考察をしている。

英語借用語の原語の品詞に「動詞概念」が含まれる

場合や「動詞概念」が借入時に付与された場合において「X する構造」が可能となる。さらにその内「名詞概念」も含まれる場合、「X をする構造」も可能となることが観察された。またその統語的特徴から「日本語動名詞」を設定して分析する方が、より適正にこの言語現象を説明できることが確認できた⁴⁾。

さらに野中 (2013) では、「動詞 (119 語)」「名詞 (40 語)」「動名詞 (26 語)」「名詞と動詞 (68 語)」「動詞と名詞 (96 語)」を rand 関数を使ってサンプル語を 10 語ずつ抽出し、「形容詞 + X 構造」または「X をする構造」での統語的特徴を観察し、『英語借用語のカタカナ語の「形容詞 + X 構造」「X をする構造」における「X」の日本語語彙範疇については、英語品詞の「動詞性」「名詞性」の影響を受け、「動詞性」「名詞性」を持った日本語動名詞としての統語的特徴を持つカタカナ語となる』⁵⁾と考察した。

本論文の目的は、野中 (2013) の研究をさらに進め、「動詞 (119 語)」「名詞 (40 語)」「動名詞 (26 語)」「名詞と動詞 (68 語)」「動詞と名詞 (96 語)」を rand 関数を使ってサンプル語を 10 語ずつ抽出する方法から、英語より借入して日本語で「X する構造」をとる「英語借用のカタカナ語」402 語全てについて検討することとし、英語品詞で分類し、「形容詞 + X 構造」または「X をする構造」での統語的特徴を観察し、英語借用語が日本語のどの品詞として扱われるべきかを明らかにすることにある。

方 法

本研究の詳細な手順を次に示す。

- ① 『コンサイスカタカナ辞典』(第 2 版, 三省堂, 2004) から「X する構造」で動詞化される英語借入のカタカナ語を抽出する。結果として 402 語のカタカナ語が抽出された。
- ② それらの英語での品詞分類について、『プログレッシブ英和中辞典』(第 4 版, 小学館, 2006) で確認する。
この辞典の品詞は使用頻度の高い品詞から掲載されている。
- ③ 英語品詞を単純分類では「動詞 (119 語)」「名詞 (40 語)」「動名詞 (26 語)」「形容詞 (1 語)」「副詞 (1 語)」とし、複合分類では「英語動詞複合分類 (112 語)」「英語名詞複合分類 (86 語)」「形容詞複合分類 (12 語)」「英語前置詞複合分類 (3 語)」「英語副詞複合分類 (2 語)」とした。

- ④ 分類した語を日本語での「形容詞 + X 構造」「X をする構造」での統語的特徴を観察する。これら 2 種の構造が可能な場合、「X」は「名詞」としての特性を持つことがいえると仮定する故である。語の「形容詞 + X 構造」「X をする構造」での可能性については平成 27 年 8 月 13 日～16 日に Yahoo Japan で検索し、検討した。

結 果

1. 単一分類の英語品詞借用のカタカナ語

「X する構造」の可能な 402 語中、「単一分類の英語品詞借用のカタカナ語」は「動詞 (119 語)」「名詞 (40 語)」「動名詞 (26 語)」「形容詞 (1 語)」「副詞 (1 語)」である。それらについて「形容詞 + X 構造」「X をする構造」での統語的特徴を観察する。

まず「英語動詞借用のカタカナ語」について、「形容詞 + X 構造」「X をする構造」での統語的特徴を観察する。表 1 に示す。(○はその構文において使用可能を表し、×は不可能を表す。以下の表においても同様。)

表 1 英語動詞借用のカタカナ語のパターン別比率

パターン	形容詞 + X	X をする	語数	比率
A	×	×	15	12.6%
B	×	○	7	5.9%
C	○	×	14	11.8%
D	○	○	83	69.7%

表 1 よりパターン A の 15 語は、「形容詞 + X 構造」「X をする構造」の両方において使用不可能な場合であり、パターン別比率が 12.6% であった。同様にパターン B の 7 語は、「形容詞 + X 構造」では不可能だが「X をする構造」では可能な場合で、パターン別比率が 5.9% であった。またパターン C の 14 語は「形容詞 + X 構造」では可能だが「X をする構造」では不可能な場合で、パターン別比率が 11.8% であった。最後にパターン D の 83 語は、「形容詞 + X 構造」「X をする構造」の両方において使用可能な場合であり、パターン別比率が 69.7% であった。

このことは『「英語動詞借用のカタカナ語」は借用する英語動詞の影響を受け、「動詞性」は引き継がれるが「名詞性」は持たない場合がある』ことを意味する。つまりパターン A の 15 語は「形容詞 + X 構造」「X をする構造」の両方において使用不可能であり、完全に「名詞性」を持たない。またパターン B の 7 語は「形容詞 + X 構造」で「名詞性」を持たない。

さらにパターン C の 14 語は「X をする構造」で「名詞性」を持たないこととなる。

資料 1 より抽出した各パターンの語例で説明する。「英語動詞借用のカタカナ語」の中で、「アイディアライズ」は、「形容詞＋X 構造」「X をする構造」両方で使用不可能で、パターン A に属する。一方「アポロジャイズ」は、「形容詞＋X 構造」では使用不可能であるが、「X をする構造」では「アポロジャイズをする」のように使用可能となり、パターン B に属する。また「クリエート」は、「様々なクリエート」のように「形容詞＋X 構造」では使用可能であるが、「X をする構造」では不可能となり、パターン C に属する。最後に「アクセプト」は、「確実なアクセプト」のように「形容詞＋X 構造」で可能であり、「アクセプトをする」のように「X をする構造」でも使用可能となり、パターン D となる。

次に「X する構造」の可能な 402 語中、単一分類で語数が 2 位（40 語）の「英語名詞借用のカタカナ語」について、「形容詞＋X 構造」「X をする構造」での統語的特徴を観察する。パターン別比率を表 2 に示す。

表2 英語名詞借用のカタカナ語のパターン別比率

パターン	形容詞＋X	X をする	語数	比率
A	×	×	1	2.5%
B	×	○	0	0.0%
C	○	×	1	2.5%
D	○	○	38	95.0%

表 2 より読み取れることは、「英語名詞借用のカタカナ語」のパターン別比率は圧倒的にパターン D が高く、その他のパターンは語数が 0 か 1 ということである。英語名詞が借用される時に「名詞性」が引き継がれて「形容詞＋X 構造」「X をする構造」両方での使用を可能にしている。では「動詞性」はどうであろうか。これは漢語の名詞に「する」を付加して動詞化するのと同じ方法が適用されていると考えられる。例えば「勉強する」「研究する」と同じく「アドバイスする」「エントリーする」などのように英語名詞を動詞化する方法である。「勉強」「研究」「アドバイス」「エントリー」などの「名詞」に含まれる「行為性＝動詞性」が動詞化を可能としていると考えられる。資料 2 より語例を挙げるとパターン A の語は「バイ」、パターン C の語は「ドッグレッグ」、パターン D の語は「ディスカッション」となる。

「英語動名詞借用のカタカナ語（26 語）」は表 3 で

示されるようにすべてがパターン D に属する。英語動名詞が「動詞性」「名詞性」を有し、借入時にそれらの特性が引き継がれているから、「X する構造」「形容詞＋X 構造」「X をする構造」での使用を可能にすると考えられる。

表3 英語動名詞借用のカタカナ語のパターン別比率

パターン	形容詞＋X	X をする	語数	比率
D	○	○	26	100.0%

資料 3 よりいくつか語例を挙げると、「ショッピング」「セッティング」「トリミング」などがあり、「形容詞＋X 構造」「X をする構造」において使用が可能となる。次に示す。

- (5) a. 安全なショッピング／ショッピングをする
- b. 豪華なセッティング／セッティングをする
- c. 定期的なトリミング／トリミングをする

「その他の単一分類借用のカタカナ語」は、英語形容詞借用の「ウォーミングアップ」と英語副詞借用の「アヘッド」がある。前者は「形容詞＋X 構造」、「X をする構造」両方において使用可能であり、後者は「形容詞＋X 構造」のみ使用可能である。「新英和大辞典」（第 6 版，研究社，2002）」によると、『日本語の「ウォーミングアップ」は「準備運動」の意味の名詞として用いる』とあり、また「アヘッド」は、『日本語ではスポーツなどで「相手にアヘッドを許す」のように「先取点，勝ち越し点」の意味で名詞として用いる』とある。両者は日本語に借入される時に「名詞」に転成している。それにより名詞の動詞化で「X する構造」での使用が可能となり、「ウォーミングアップ」はパターン C をとり、「アヘッド」はパターン D とるに至ったと考えられる。従って英語形容詞借用，英語副詞借用の場合については英語品詞の影響を受けていないといえる。

2. 複合分類の英語品詞借用のカタカナ語

「複合分類の英語品詞借用のカタカナ語」は「英語動詞複合分類（112 語）」「英語名詞複合分類（86 語）」「形容詞複合分類（12 語）」「英語前置詞複合分類（3 語）」「英語副詞複合分類（2 語）」と分類された。

英語動詞複合分類とは英語動詞が品詞分類（使用頻度の高さ）の第 1 位に記載されているがその他の品詞（名詞，形容詞，副詞など）もある語類のことであ

る．この語類の特徴としては「名詞」と共存している語が 112 語中 109 語ある点である．パターン別比率を表 4 に示す．

表4 英語動詞複合分類借用のカタカナ語のパターン別比率

パターン	形容詞＋X	X をする	語数	比率
A	×	×	1	0.9%
B	×	○	1	0.9%
C	○	×	2	1.8%
D	○	○	108	96.4%

資料 6 の列見出しの「英語品詞」を見ると英語動詞複合分類の語の殆どが「名詞」と共存していることから，パターン D が最も多く，「形容詞＋X 構造」「X をする構造」での名詞使用の構造では殆ど可能となっている．「動詞」と「形容詞」の英語複合分類の「インテグレート」「セレクト」「プリセット」は全部パターン D に分類される．『新英和大辞典』（第 6 版，研究社，2002）では「インテグレート」は「複合体．統合体．」の意味として，「セレクト」は「精選されたもの．極上品．」の意味として「名詞」も存在する．従って名詞使用の構造で可能となる．「プリセット」だけは「名詞」の意味が存在しない．「プリセット」の「名詞性」の獲得については，単一分類で英語形容詞借用の「ウォーミングアップ」の場合と同じく日本語に借入される時に「名詞」に転成していると考えられる．

「英語名詞複合分類借用のカタカナ語（86 語）」は「英語名詞」が第 1 位の品詞分類であるが，資料 7 の列見出しの「英語品詞」を見ると 82 語が「動詞」と共存している．他の 4 語は「名詞と形容詞」で分類される語で「スタンバイ」「ノックアウト」「バックアップ」「ピックアップ」である．すべての語に「名詞性」が含まれているので「形容詞＋X 構造」「X をする構造」での使用可能率は高い．表 5 はパターン D の比率が高いことを示している．

表5 英語名詞複合分類借用のカタカナ語のパターン別比率

パターン	形容詞＋X	X をする	語数	比率
A	×	×	1	1.2%
D	○	○	85	98.8%

「英語形容詞複合分類借用のカタカナ語（12 語）」は資料 8 の列見出しの「英語品詞」を見ると「名詞」が共通し，表 6 ではパターン D の比率が高いことを

示している．「動詞性」の獲得については「単一分類の英語名詞借用のカタカナ語」と同じく「名詞」から「X する構造」を可能にすることにより獲得したと説明できる．

表6 英語形容詞複合分類借用のカタカナ語のパターン別比率

パターン	形容詞＋X	X をする	語数	比率
A	×	×	1	8.3%
B	×	○	1	8.3%
D	○	○	10	83.3%

その他の複合分類としては，「英語前置詞複合分類借用」の「プラス」「マイナス」「オーバー」と「英語副詞複合分類借用」の「アップ」「ダウン」である．資料 9, 10 の列見出しの「英語品詞」を見ると「名詞」が共通である．「マイナス」以外は「動詞」も共通である．すべてがパターン D に分類される．

考 察

1. 「X」の名詞性，動詞性

前節では，『コンサイスカタカナ語辞典』（第 2 版，三省堂，2004）より，「する」を付加されて英語から借用した 402 語を抽出し，「単一分類の英語品詞を借用するカタカナ語」と，「複合分類の英語品詞借用のカタカナ語」について「形容詞＋X 構造」「X をする構造」での統語的特徴を観察した．その結果，パターン D（「形容詞＋X 構造」「X をする構造」両方で使用可能）の比率は，「英語動詞借用のカタカナ語」において 69.7% で，「英語形容詞複合分類借用のカタカナ語」において 83.3% で，その他で 95% 以上であった．

「英語動詞借用のカタカナ語」でパターン D の比率が 69.7% と低い理由は，英語動詞を借用する時に「動詞性」を持つが故に「X する構造」での使用を可能にし，「名詞性」は徐々に獲得され，「形容詞＋X 構造」「X をする構造」での使用が可能になっていったからだと考えられる．つまり英語は日本語に入れられる時，英語にも日本語にも精通した話者が使い始め，徐々にカタカナ語として定着する過程を辿ることから，初期の利用者は英語動詞の束縛を受け，「形容詞＋X 構造」「X をする構造」で名詞として使用する表現を控えたことが考えられる．そして徐々に英語動詞の束縛が無くなり（英語動詞から借用しているという認識がなくなり），名詞的な使用が増えていったと考えられる．いわば「形容詞＋X 構造」「X をする構造」の両方，または一方が不可能な英語動詞借用の語

は「英語動詞借用のカタカナ語」が名詞的使用に移行する過程の段階ともいえる。

次に「形容詞＋X 構造」「X をする構造」での「英語動詞借用のカタカナ語」と「英語名詞借用のカタカナ語」の構造別比率を表 7、表 8 で観察する。

表7 英語動詞借用のカタカナ語の構造別比率

可否	形容詞＋X		X をする	
	語数	比率	語数	比率
○	97	81.5%	90	75.6%
×	22	18.5%	29	24.4%

表8 英語名詞借用のカタカナ語の構造別比率

可否	形容詞＋X		X をする	
	語数	比率	語数	比率
○	39	97.5%	38	95.0%
×	1	2.5%	2	5.0%

表 7 の「英語動詞借用のカタカナ語の構造別比率」については次の 2 点が指摘される。第 1 点は「形容詞＋X 構造」においても「X をする構造」においても使用可能な語の比率が高い（「形容詞＋X 構造」＝81.5%、「X をする構造」＝75.6%）が、他の分類、例えば表 8 の「英語名詞借用のカタカナ語の構造別比率」での比率（「形容詞＋X 構造」＝97.5%、「X をする構造」＝95.0%）程は高くないことである。第 2 点は使用可能な語のうち、「形容詞＋X 構造」の比率が「X をする構造」より高いことである。

第 1 点の理由については、「英語動詞借用のカタカナ語」が「形容詞＋X 構造」「X をする構造」において「名詞性」を獲得する途中段階であると考えられる。第 2 点の理由については、「形容詞＋X 構造」「X をする構造」で「名詞性」を獲得する段階で「構造」による許容度の差異が出ていると考えるが、「X をする構造」は「X する構造」と似ているが故に許容度が低くなっているのかもしれないとも考えられる。

表 8 の「英語名詞借用のカタカナ語」の構造別比率」では「形容詞＋X 構造」「X をする構造」の両方において英語名詞の「名詞性」が引き継がれ使用比率が高いことを示している。また「英語名詞借用のカタカナ語」の場合は、原語の名詞に「動詞性」が含まれているといえる。資料 2 から語例を示すと「アドバイス」「エラー」「エントリー」「カムバック」などは「行為を表す英語名詞」であるので「動詞概念」が含まれている。漢語の「勉強」「研究」「発言」なども同

様である。それ故に「動詞概念」を含む語を必要とする「X する構造」での使用が可能になったのではないか。「形容詞＋X 構造」「X する構造」では原語の「名詞性」故に問題なく使用可能となっている。

一方「英語形容詞複合分類借用のカタカナ語」の場合、資料 8 では 12 語のうち、7 語（「オーケー」「ショート」「コーディネート」「トータル」「ノックダウン」「オープン」「フィット」）には原語に動詞形があるがその他の 5 語（「クリア」「エラボレート」「エレクト」「プレゼント」「ビルトイン」）には原語に動詞形が無い。これらの 5 語も英語名詞の場合と同じく「動作・行為」を表し、「動詞性」を有するといえる。それ故に「X する構造」での使用が可能となっていると考えられる。

また表 6 においてパターン D が 83.3% の理由は、「オーケー」以外の語に「名詞」も含まれ、借用する際に違和感なく「名詞」として使用することができるからだと考えられる。「オーケー」は「名詞性」が付加されて使用可能になったと考える。

またその他の「英語前置詞複合分類（3 語）」「英語副詞複合分類（2 語）」においても資料 9、資料 10 の如く全ての語に「名詞」が含まれておりパターン D の比率が高くなっている理由として考えられる。

2. 「X」の日本語語彙範疇

次に「X する構造」「形容詞＋X 構造」「X をする構造」における「X」は日本語語彙範疇のなかでどのように捉えればよいかについて考察する。

石野（1983）は、漢語より借用し、日本語の「X する構造」「X をする構造」で使用される語の品詞を「名詞」として捉えている。

漢語で言うと、「勉強する」は「勉強をする」と同じだし、「出発する」は「出発をする」と同じである。漢語の場合は、「○○する」は原則としてすべて「○○をする」に還元される。「○○」は常に名詞だと考えていいだろう⁶⁾。

さらに「英語借用のカタカナ語（石野は「外来語」と表現している）」についてはこう考察している。

外来語の場合も、「スカウト」、「スタート」、「ストップ」、「スパート」、「スライス」、「スライド」、「スリップ」など、原語において名詞と動詞が同形であるものは多い。これらに「する」を付けるとき

の手続きは、漢語の場合とまったく同様だ⁷⁾。

前節の分類からみると「スカウト」「スライス」は「英語名詞・動詞タイプ（辞書での品詞表記は名詞，動詞の順にされている）」であり，「スタート」，「ストップ」「スパート」「スライド」「スリップ」は「英語動詞・名詞タイプ（辞書での品詞表記は動詞，名詞の順に表記されている）」である。原語において「名詞性」が含まれるので「Xをする構造」が可能であるといえるが，果たして「Xする構造」での「X」も名詞と言っているのだろうか。これは原語の「動詞性」が「Xする構造」を可能にしていると考えられないだろうか。さらに石野（1983）の観察を引用する。

原語において名詞と動詞が別語形のものも少なくない。そういう語が外来語となったとき，どちらの形に「する」を付けるかが問題だ。普通は動詞に「する」を付ける。名詞に付けるのは，どちらかと言えば例外的と言っていよう⁸⁾。

石野（1983）の観察では『原語の名詞と動詞が別語形の場合は動詞に「する」を付ける』と述べているが，表9に原語の名詞と動詞が別語形で日本語にカタカナ語として借入された語の「Xする構造」，「Xをする構造」での統語的特徴を示す。

表9 英語動詞／名詞のカタカナ語の統語的特徴
(①：Xする ②：形容詞＋X ③：Xをする)

英語	品詞	①	②	③
アジテート	動詞	○	○	○
アジテーション	名詞	×	○	○
アプリシエート	動詞	○	×	×
アプリシエーション	名詞	×	○	○
イルミネート	動詞	○	○	×
イルミネーション	名詞	×	○	○
ノミネート	動詞	○	○	×
ノミネーション	名詞	×	○	○
イラストレート	動詞	○	○	○
イラストレーション	名詞	×	○	○
ディスカス	動詞	○	×	○
ディスカッション	名詞	○	○	○

表9の語例からみると，確かに英語動詞の場合に「Xする構造」が可能であり，別語形の英語名詞の場合は「ディスカッション」（動詞にも名詞にも「する」

が付加されている）の場合を除いて「Xする構造」が不可能となっている。石野（1983）の観察では『名詞と動詞が別語形の場合は動詞に「する」が付加される』となる。この点について筆者は『原語の動詞性が「する構造」を可能にし，原語の「名詞性」が「形容詞＋X構造」，「Xをする構造」を可能にする』と考えた方がより一般性のある観察になると考える。なぜならば「アジテート」や「ノミネート」等は英語動詞で，別語形の「アジテーション」や「ノミネーション」があり，『名詞と動詞が別語形の場合は動詞に「する」が付加される』という現象の説明はできるが，「アジテート」や「イラストレート」が「形容詞＋X構造」や「Xをする構造」で可能になる現象は説明できない。原語の品詞が英語動詞のみとなる「アジテート」や「イラストレート」の場合は，原則的には「形容詞＋X構造」や「Xをする構造」は不可能であるはずだが，資料1よりそれらの構造での使用が可能となっている。その理由は日本語話者が使用する中で，原語の「動詞概念（動詞性）」に「名詞概念（名詞性）」が付加されて使用可能となると考えられる。この方法により原語の「動詞概念」「名詞概念」よりカタカナ語の日本語での統語的特徴が説明でき，また例外的な現象においては，言語使用の中で「名詞概念」，または「動詞概念」の付加より転成（ここでは名詞を動詞的な語に変えたり，動詞を名詞的な語に変えたりするという意味）したと考えられ，より一般性のある説明ができる。

さらに付け加えると英語名詞借用で「Xする構造」が可能で語例は本論文のデータ（資料2）からみると40例あり，これは「名詞概念」が付加された英語動詞借用の例とは逆に，英語名詞借用の場合，原語の束縛では「名詞概念」のみを有するが故に「Xする構造」は不可能であるはずだが，英語名詞に「動詞性（行為・動作を表す概念）」がある点に着目すれば，「Xする構造」で使用可能になる説明ができる。

次に「形容詞＋X構造」，「Xをする構造」において「名詞性」を持ち，「Xする構造」において「動詞性」を持つ「X」を日本語の語彙範疇でどのように捉えればよいのかについて考察する。

本論文のこれまでの考察において，原語において「名詞概念」「動詞概念」の両方を有するが故に「Xする構造」「形容詞＋X構造」「Xをする構造」において使用可能となる統語的特徴が説明できるとした。また「英語動詞借用のカタカナ語」はカタカナ語使用のある過程で「名詞概念」を付加され，「英語名詞借

用」は同様に英語名詞の「動詞概念」が〔＋動詞，＋名詞〕の語彙概念を持ち，他の分類と同様の統語的特徴を持つとした。

「X する構造」での「X」は石野（1983）の観察のように日本語において「単なる名詞」ではないことが影山（1993）の観察により分かる。彼は，「X する構造」での「X」が「単なる名詞」では「する」との結合可能性がないことから，「名詞性を持った動詞すなわち動名詞（テストする，プリントする）」と見ることを提案している⁹⁾。次例を示す。

- (6) a. 勉強する
- b. 研究する
- c. 発表する
- d. * 感覚する
- e. * 学校する
- f. * 手紙する

上例 6a から 6c の「勉強する」「研究する」「発表する」の「勉強」「研究」「発表」は，明らかに 6d から 6f の「感覚」「学校」「手紙」とは違い「X する構造」で使用可能という統語的特徴がある。前者の語群を影山（1993）は，その統語的特徴から「日本語の動名詞」として位置付けている。

先行研究において述べた影山（1993）の日本語動名詞と名詞の統語的特徴の違いの 6 項目のうち，次の 4 項目が「英語借用のカタカナ語」について当てはまることを野中（2008）が観察している¹⁰⁾。

- ① 動名詞は「する」で動詞化できる。通常の名詞は動詞化できない。
- ② 動名詞は「方法」と結合する。動詞連用形や名詞は結合できない。
- ③ 「用」との結合において，名詞，動名詞には付くが，動詞の連用形には付かない。
- ④ 「～上手」との結合において，動詞と動名詞は適切な表現となるが，名詞とは不適格になる。

「X する構造」における「X」の日本語語彙範疇を影山（1993）の提案である「名詞性を持った動詞」とした場合，「形容詞＋X 構造」「X をする構造」の説明に不都合が生じる。なぜならそれらの構造における「X」は「名詞性」があるが，動詞ではないからである。日本語動名詞は「名詞性」と「動詞性」の両方を持ち，それ故に語彙概念に「動詞性」を必要とする

「X する構造」での使用を可能にし，語彙概念に「名詞性」を必要とする「形容詞＋X 構造」「X をする構造」での使用が可能となると思われる。影山（1993）の言うように「X する構造」の「X」を「名詞性を持った動詞」とすることや，石野（1983）の言うように「X する構造」「X をする構造」での「X」を「単なる名詞」と扱うよりも，「形容詞＋X 構造」「X をする構造」「X する構造」における「X」を「動詞性を持った名詞＝日本語動名詞」とした方が，それらの統語的特徴について，より一般性を持って説明できると考える。

本節での考察により，「英語借用語のカタカナ語」の「X する構造」「形容詞＋X 構造」「X をする構造」における「X」の日本語語彙範疇については英語品詞の「動詞性」「名詞性」の影響を受け，「動詞性」「名詞性」を持った日本語動名詞としての統語的特徴を持つカタカナ語となるといえるのではないかと考える。

結 語

本論文で筆者は，日本語の「X する構造」「形容詞＋X 構造」「X をする構造」において，「英語借用のカタカナ語」の語彙概念がそれらの使用可能度に影響していることと仮定し，「X する構造」が可能な「英語借用のカタカナ語」402 語より原語の品詞による分類をして，それらの「形容詞＋X 構造」「X をする構造」における統語的特徴を観察した。

英語借用語の原語の品詞に「動詞概念」が含まれる場合，「X する構造」が可能となり，「名詞概念」が含まれる場合，「形容詞＋X 構造」「X をする構造」が可能となった。この統語的特徴を説明するには，「日本語動名詞」を設定して分析する方が，より適正にこの言語現象を説明できることが確認できた。結論として，「英語借用のカタカナ語」の「X する構造」「形容詞＋X 構造」「X をする構造」における「X」の日本語語彙範疇については，借用する英語品詞の「動詞性」「名詞性」の影響を受け，「動詞性」「名詞性」を持った日本語動名詞（＝動詞性を持った名詞）としての統語的特徴を持つカタカナ語となると考える。

「英語動詞借用のカタカナ語」の「形容詞＋X 構造」「X をする構造」で使用可能となる率が他の「英語品詞借用のカタカナ語」より低い理由については今後の更なる研究の課題とする。

引用文献

- 1) 石野博史：現代外来語考。大修館書店（東京），

- 154, 1983.
- 2) 影山太郎：文法と語形成．ひつじ書房（東京），26-30, 1993.
- 3) 野中博雄：英語動詞の日本語語彙範疇化について—日本語対応語との比較—．桐生大学紀要, 19：31-43, 2008.
- 4) 野中博雄：日本語「VN する構文」，「VN をする構文」の英語借用語の英語品詞と日本語品詞の関連について．桐生大学紀要，20：23-31, 2009.

- 5) 野中博雄：「する」付加される英語借用語の語彙範疇化について—英語品詞と日本語品詞との関連性—．桐生大学紀要，24：33-41, 2013.
- 6) 石野（1983）：154
- 7) 同上：155
- 8) 同上：155
- 9) 影山（1993）：39
- 10) 前掲書 3）：36

資料

略号一覧：v = 動詞 n = 名詞 g = 動名詞 aj = 形容詞 av = 副詞 pp = 前置詞 inj = 間投詞

型 A: 「形容詞 + X」= ×, 「X をする」= × 型 B: 「形容詞 + X」= ×, 「X をする」= ○

型 C: 「形容詞 + X」= ○, 「X をする」= × 型 D: 「形容詞 + X」= ○, 「X をする」= ○

資料1 英語動詞借用のカタカナ語の統語的特徴

No.	カタカナ語	英語品詞	形容詞例	型	No.	カタカナ語	英語品詞	形容詞例	型
1	アイディアライズ	v	—	A	61	シンフォナイズ	v	見事な	C
2	アイデンティファイ	v	外的な	D	62	シンプリファイ	v	究極的な	C
3	アクセプト	v	確実な	D	63	シンボライズ	v	半永久的な	D
4	アコモデート	v	—	A	64	スーパーインポーズ	v	一時的な	D
5	アジテート	v	意図的な	D	65	ズームアウト	v	天文学的な	D
6	アジャスト	v	安全な	D	66	ズームアップ	v	微妙な	D
7	アダプト	v	一般的な	D	67	ズームイン	v	ゆるやかな	D
8	アテンド	v	過剰な	D	68	スケールアップ	v	スムーズな	D
9	アトラクト	v	有効な	D	69	スケールダウン	v	大幅な	D
10	アナウンス	v	適当な	D	70	スペルアウト	v	特別な	D
11	アナライズ	v	不完全な	D	71	ダウンサイズ	v	大幅な	D
12	アプライ	v	定期的な	D	72	タッチアップ	v	部分的な	D
13	アブリシエート	v	—	A	73	ディエスカレート	v	—	A
14	アポロジャイズ	v	—	B	74	ディスカス	v	—	B
15	アメリカナイズ	v	徹底的な	D	75	ディスクローズ	v	積極的な	D
16	アレンジ	v	色々な	D	76	ディスターブ	v	純粋な	D
17	イニシヤライズ	v	具体的な	D	77	ディストリビュート	v	高品質な	D
18	イラストレート	v	上手な	D	78	テークノート	v	有名な	D
19	イルミネート	v	多彩な	C	79	デディケート	v	便利な	D
20	インクルード	v	再帰的な	D	80	デリート	v	残酷な	D
21	インストール	v	具体的な	D	81	トーンダウン	v	意外な	C
22	インスパイア	v	多大な	D	82	ドラマタイズ	v	過剰な	C
23	インボルブ	v	十分な	C	83	ナチュラライズ	v	—	A
24	エキサイト	v	—	B	84	ネゴシエート	v	正常な	D
25	エスカレート	v	突発的な	D	85	ハミネート	v	不可解な	C
26	エミット	v	—	A	86	パワーアップ	v	順当な	D
27	エリミネート	v	—	A	87	パワーダウン	v	急激な	D
28	エンカレッジ	v	様々な	D	88	ブラッシュアップ	v	壮大な	C
29	エンコード	v	冗長な	D	89	ブリーチアウト	v	大胆な	C
30	エンジョイ	v	—	B	90	ブリパッケージ	v	—	A
31	エンファサイズ	v	—	B	91	フレッシュアップ	v	大がかりな	D
32	オーソライズ	v	不要な	D	92	プロテクト	v	強力な	D
33	オペティマイズ	v	過剰な	D	93	プロポーズ	v	素敵な	D
34	オミット	v	感覚的な	D	94	プロモート	v	リアルタイムな	D
35	オルガナイズ	v	きめ細かな	D	95	マージ	v	基本的な	D

36	カテゴライズ	v	適切な	D	96	マネージ	v	統合的な	D
37	ギブ-アップ	v	紳士的な	D	97	ミスティブファイ	v	—	A
38	キャラクタライズ	v	柔軟な	D	98	ミスリード	v	巧妙な	D
39	クオリファイ	v	新たな	D	99	メイクラブ	v	素敵な	D
40	クリエート	v	様々な	C	100	モダナイズ	v	部分的な	D
41	コミット	v	長期的な	D	101	モディファイ	v	様々な	D
42	コミュニケーション	v	大事な	D	102	モノボライズ	v	—	A
43	コンデンス	v	デリケートな	D	103	ユニファイ	v	—	A
44	コントリビュート	v	必要な	D	104	ライトアップ	v	特別な	D
45	コンノート	v	—	B	105	リアライズ	v	—	A
46	コンピート	v	無名な	C	106	リカバー	v	無意味な	C
47	コンピューターライズ	v	—	B	107	リタイア	v	完全な	D
48	コンファーム	v	不必要な	D	108	リファイン	v	大幅な	D
49	コンフォーム	v	シームレスな	D	109	リブレース	v	計画的な	D
50	サジェスト	v	有効な	D	110	リフレッシュ	v	新たな	D
51	サスペンド	v	自動的な	D	111	リプロデュース	v	様々な	D
52	サティスファイ	v	—	A	112	リラックス	v	贅沢な	D
53	サブスクライブ	v	永続的な	D	113	リンチ	v	凄惨な	D
54	サンバイズ	v	—	A	114	レコメンド	v	戦略的な	D
55	システムタイズ	v	環境的な	C	115	レシーブ	v	適切な	D
56	シビライズ	v	—	A	116	ローマナイズ	v	正確な	D
57	シミュレート	v	正確な	D	117	ログアウト	v	頻繁な	D
58	ジャスティファイ	v	適切な	D	118	ログイン	v	不正な	D
59	ジャパナイズ	v	徹底的な	C	119	ワインドアップ	v	豪快な	D
60	シンクロナイズ	v	強力な	D					

資料2 英語名詞借用のカタカナ語の統語的特徴

No.	カタカナ語	英語品詞	形容詞例	型	No.	カタカナ語	英語品詞	形容詞例	型
1	アドバイス	n	貴重な	D	21	ディスカッション	n	一般的な	D
2	エラー	n	深刻な	D	22	ドッグレグ	n	急激な	C
3	エントリー	n	簡単な	D	23	トリートメント	n	効果的な	D
4	カムバック	n	見事な	D	24	ドレスアップ	n	立派な	D
5	キルティング	n	お洒落な	D	25	ドロップアウト	n	細かな	D
6	グッドバイ	n	爽やかな	D	26	バイ	n	—	A
7	クリーンアップ	n	暗黙的な	D	27	バイバイ	n	元気な	D
8	クローズアップ	n	果敢な	D	28	パスボール	n	明らかな	D
9	コーチ	n	偉大な	D	29	ピンカール	n	キュートな	D
10	コーディネーション	n	素敵な	D	30	フィードバック	n	適切な	D
11	ゴール	n	鮮やかな	D	31	フォースアウト	n	一般的	D
12	シェーブアップ	n	部分的な	D	32	フルエントリー	n	華やかな	D
13	シャットアウト	n	完璧な	D	33	ペディキュア	n	派手な	D
14	スピードアップ	n	抜本的な	D	34	ホールインワン	n	豪快な	D
15	スローダウン	n	短期的な	D	35	メーキャップ	n	微妙な	D
16	タイアップ	n	安易な	D	36	メモ	n	雑多な	D
17	タッチダウン	n	見事な	D	37	ラッセル	n	大変な	D
18	チェックアウト	n	部分的な	D	38	リモートコントロール	n	高速な	D
19	チェックイン	n	簡単な	D	39	リリーフ	n	貴重な	D
20	チューンアップ	n	基本的な	D	40	ロックアウト	n	永続的な	D

資料3 英語動名詞借用のカタカナ語の統語的特徴

No.	カタカナ語	英語品詞	形容詞例	型	No.	カタカナ語	英語品詞	形容詞例	型
1	アイドルリング	g	不安定な	D	14	ノッキング	g	代表的な	D
2	カッティング	g	超大胆な	D	15	ハミング	g	下手な	D
3	サンプリング	g	不適切な	D	16	ブラッシング	g	基本的な	D
4	シェービング	g	滑らかな	D	17	プランニング	g	壮大な	D
5	ショッピング	g	安全な	D	18	プログラミング	g	簡単な	D
6	スライディング	g	一般的な	D	19	ヘッディング	g	見事な	D
7	セッティング	g	豪華な	D	20	ペッティング	g	精神的な	D
8	ソーティング	g	簡単な	D	21	ボーリング	g	孤独な	D
9	ダイビング	g	基本的な	D	22	マッチング	g	安定な	D
10	ダンピング	g	厳密な	D	23	モニタリング	g	高度な	D
11	チューニング	g	特殊な	D	24	ランディング	g	綺麗な	D
12	ドッキング	g	ラフな	D	25	レコーディング	g	様々な	D
13	トリミング	g	定期的な	D	26	ローリング	g	スムーズな	D

資料4 英語形容詞借用のカタカナ語の統語的特徴

No.	カタカナ語	英語品詞	形容詞例	型
1	ウォーミングアップ	aj	十分な	D

資料5 英語副詞借用のカタカナ語の統語的特徴

No.	カタカナ語	英語品詞	形容詞例	型
1	アヘッド	av	一般的な	C

資料6 英語動詞複合分類借用のカタカナ語の統語的特徴

No.	カタカナ語	英語品詞	形容詞例	型	No.	カタカナ語	英語品詞	形容詞例	型
1	インテグレート	v aj	広範な	D	57	スリップ	v n	急激な	D
2	セレクト	v aj	確かな	D	58	セーブ	v n	意図的な	D
3	プリセット	v aj	代表的な	D	59	セット	v n	お得な	D
4	クローズ	v aj av n	一時的な	D	60	ソフィスティケート	v n	ナチュラルな	C
5	カット	v aj n	お得な	D	61	ターン	v n	華麗な	D
6	アソシエート	v n aj	安全な	D	62	ダイジェスト	v n	適当な	D
7	エスケープ	v n aj	必要な	D	63	ダイブ	v n	迷惑な	D
8	カウント	v n aj	有利な	D	64	ダッシュ	v n	危険な	D
9	キャッチ	v n aj	トリッキーな	D	65	タッチ	v n	繊細な	D
10	ドライブ	v n aj	快適な	D	66	チェンジ	v n	豪快な	D
11	ペイ	v n aj	—	B	67	チャージ	v n	お得な	D
12	リード	v n aj	良質な	D	68	ディクテート	v n	対立的な	D
13	リザーブ	v n aj	好きな	D	69	ディスピュート	v n	ディーブな	D
14	チェック	v n aj inj	厳正な	D	70	デザイン	v n	小粋な	D
15	シュート	v n inj	的確な	D	71	トス	v n	見事な	D
16	ファック	v n inj	幻想的な	D	72	トライ	v n	大胆な	D
17	アシスト	v n	立派な	D	73	トラバース	v n	不安定な	D
18	アタック	v n	猛烈な	D	74	ドリブル	v n	芸術的な	D
19	アフェクト	v n	ネガティブな	D	75	ネグレクト	v n	消極的な	D
20	アプローチ	v n	効果的な	D	76	ノック	v n	正式な	D
21	インサート	v n	画期的な	D	77	ページ	v n	自動的な	D
22	インターセプト	v n	華麗な	D	78	バースト	v n	一時的な	D
23	ウイंक	v n	上手な	D	79	ハイジャック	v n	国際的な	D
24	エグジビット	v n	—	A	80	バウンド	v n	中途半端な	D
25	オーバーヒート	v n	間抜けな	D	81	パス	v n	無効な	D
26	オーバーホール	v n	定期的な	D	82	ハッスル	v n	巧妙な	D
27	オーバーラップ	v n	必要な	D	83	パップ	v n	有効な	D
28	オーバーラン	v n	適切な	D	84	ハント	v n	新たな	D
29	ガード	v n	上手な	D	85	バント	v n	上手な	D
30	カール	v n	ラフな	D	86	ヒット	v n	驚異的な	D
31	ガイド	v n	完全な	D	87	ファンブル	v n	致命的な	D
32	カバー	v n	軽量な	D	88	フィクス	v n	革命的な	C
33	キープ	v n	驚異的な	D	89	フオール	v n	無駄な	D

34	キス	v n	いたづらな	D	90	フォロー	v n	完璧な	D
35	キック	v n	正確な	D	91	プッシュ	v n	強力な	D
36	キャンセル	v n	急な	D	92	ブリーチ	v n	一般的な	D
37	コール	v n	元気な	D	93	プリント	v n	魅力的な	D
38	コントロール	v n	安全な	D	94	ブレイク	v n	急激な	D
39	コンバート	v n	大幅な	D	95	プレス	v n	精力的な	D
40	サーブ	v n	華麗な	D	96	ブレンド	v n	まろやかな	D
41	サポート	v n	きめ細やかな	D	97	ブロー	v n	地味な	D
42	シフト	v n	変則的な	D	98	プロデュース	v n	奇妙な	D
43	ジャググル	v n	多彩な	D	99	ボイコット	v n	大胆な	D
44	シャッフル	v n	一般的な	D	100	ボイル	v n	地味な	D
45	ジャンプ	v n	ダイナミックな	D	101	ホップ	v n	リズムカルな	D
46	シャンプー	v n	上手な	D	102	ミート	v n	的確な	D
47	スイング	v n	綺麗な	D	103	ミス	v n	重大な	D
48	スキャン	v n	初歩的な	D	104	ミックス	v n	理想的な	D
49	スタート	v n	新たな	D	105	リコール	v n	速やかな	D
50	ストップ	v n	確実な	D	106	リジェクト	v n	新たな	D
51	ストリップ	v n	有名な	D	107	リシャッフル	v n	制度的な	D
52	スパート	v n	見事な	D	108	リプリント	v n	お手頃な	D
53	スピーク	v n	印象的な	D	109	リライト	v n	楽な	D
54	スピン	v n	特異な	D	110	リワインド	v n	親切な	D
55	スポイル	v n	直接的な	D	111	レジスト	v n	堅牢な	D
56	スライド	v n	シンプルな	D	112	ワーブ	v n	高速な	D

資料7 英語名詞複合分類借用のカタカナ語の統語的特徴

No.	カタカナ語	英語品詞	形容詞例	型	No.	カタカナ語	英語品詞	形容詞例	型
1	スタンバイ	n aj	完璧な	D	44	スパイ	n v	聡明な	D
2	ノックアウト	n aj	歴史的な	D	45	スパイク	n v	豪快な	D
3	バックアップ	n aj	定期的な	D	46	スライス	n v	攻撃的な	D
4	ピックアップ	n aj	大まかな	D	47	セックス	n v	幸せな	D
5	インプット	n aj v	良質な	D	48	タイプ	n v	好きな	D
6	カンニング	n aj v	完全な	D	49	ダイヤル	n v	特別な	D
7	サービス	n aj v	高品質な	D	50	タックル	n v	危険な	D
8	スクラップ	n aj v	大切な	D	51	チャレンジ	n v	新たな	D
9	ストック	n aj v	便利な	D	52	デート	n v	素敵な	D
10	パッケージ	n aj v	お得な	D	53	テスト	n v	完璧な	D
11	マスター	n aj v	気さくな	D	54	トレース	n v	単純な	D
12	カーブ	n v aj	危険な	D	55	トレード	n v	効果的な	D
13	クロス	n v aj	正確な	D	56	トンネル	n v	幻想的な	D
14	ダイエット	n v aj	無理な	D	57	ネット	n v	身近な	D
15	チャーター	n v aj	快適な	D	58	ノート	n v	不思議な	D
16	バック	n v aj	苦手な	D	59	パトロール	n v	頻繁な	D
17	コンタクト	n v aj av	効果的な	D	60	パラフレーズ	n v	複雑な	D
18	パック	n v aj av	お得な	D	61	パレード	n v	華やかな	D
19	Uターン	n v	タイトな	D	62	パンク	n v	深刻な	D
20	アース	n v	悪質な	D	63	パンチ	n v	猛烈な	D
21	アウトブット	n v	強制的な	D	64	ファイル	n v	危険な	D
22	アピール	n v	謙虚な	D	65	プール	n v	綺麗な	D
23	イメージ	n v	勝手な	D	66	フック	n v	便利な	D
24	インタビュー	n v	不機嫌な	D	67	プレー	n v	派手な	D
25	ウェーブ	n v	ラフな	D	68	ブレース	n v	スマートな	D
26	エコー	n v	耳障りな	D	69	プログラム	n v	有害な	D
27	エスコート	n v	傲慢な	D	70	ブロック	n v	心理的な	D
28	オーダー	n v	様々な	D	71	プロテスト	n v	平和的な	D
29	キャンプ	n v	静かな	D	72	マーク	n v	特別な	D

30	コピー	n v	素敵な	D	73	マッサージ	n v	本格的な	D
31	コメント	n v	辛辣な	D	74	マッチ	n v	理想的な	D
32	コンプロマイズ	n v	有利な	D	75	マニキュア	n v	透明な	D
33	サイン	n v	ユニークな	D	76	モニター	n v	簡単な	D
34	シード	n v	安全な	D	77	ランク	n v	必要な	D
35	ジャック	n v	—	B	78	リーク	n v	不毛な	D
36	シンクロ	n v	奇跡的な	D	79	リクエスト	n v	無効な	D
37	スイッチ	n v	最適な	D	80	リサーチ	n v	適切な	D
38	スカウト	n v	悪質な	D	81	リフォーム	n v	理想的な	D
39	スキップ	n v	軽やかな	D	82	レポート	n v	不運な	D
40	スクープ	n v	鮮やかな	D	83	リレー	n v	効率的な	D
41	スクロール	n v	滑らかな	D	84	リンク	n v	不正な	D
42	スケッチ	n v	ラフな	D	85	レクチャー	n v	豊富な	D
43	スパーク	n v	強力な	D	86	ロック	n v	有効な	D

資料8 英語形容詞複合分類借用のカタカナ語の統語的特徴

No.	カタカナ語	英語品詞	形容詞例	型	No.	カタカナ語	英語品詞	形容詞例	型
1	オーケー	aj av inj v n	最終的な	D	7	ビルトイン	aj n	高価な	D
2	クリア	aj av n	楽な	D	8	コーディネート	aj n v	多彩な	D
3	ショート	aj av n v	マニッシュな	D	9	トータル	aj n v	—	B
4	エラボレート	aj n	—	A	10	ノックダウン	aj n v	長期的な	D
5	エレクト	aj n	中途半端な	D	11	オープン	aj v n	様々な	D
6	プレゼント	aj n	すてきな	D	12	フィット	aj v n	快適な	D

資料9 英語前置詞複合分類借用のカタカナ語の統語的特徴

No.	カタカナ語	英語品詞	形容詞例	型
1	プラス	pp aj av n v	小幅な	D
2	マイナス	pp aj n	壮大な	D
3	オーバー	pp aj n v	完全な	D

資料10 英語副詞複合分類借用のカタカナ語の統語的特徴

No.	カタカナ語	英語品詞	形容詞例	型
1	アップ	av pp aj n v	ルーズな	D
2	ダウン	av pp n v inj	壮絶な	D

On the Relationship between English and Japanese Parts of Speech in Katakana Words: The Lexicalization of 402 “*suru*”-Appended English Loanwords

Hiroo Nonaka

Abstract

English loanwords transformed into Japanese have lexical categorization processes applied to them. This paper hypothesizes that the concept of part of speech in English influences the concept of part of speech in Japanese in the lexical categorization process. This study examines the Japanese lexical categorization of English loanwords which are suffixed with “-*suru* (to do)” (the *X-suru* construction) in Japanese.

402 English loanwords which allow the *X-suru* construction in Japanese were extracted from the *Concise Katakana Word Dictionary*, 2nd edition (Sanseido, 2004), the English parts of speech were looked up in the *Progressive English-Japanese Dictionary*, 4th edition (Shogakukan, 2006) and classified into 10 categories in terms of English parts of speech. In each category, the syntactic behaviors in the Japanese “*X-suru* construction,” “Adjective + *X* construction” and “*X-o-suru* construction” were observed in order to identify the Japanese lexical category for “*X*” in these constructions.

The results confirm the hypothesis that the lexical categorization of *katakana* words borrowed from English (=X) in the “*X-suru* construction,” “Adjective + *X* construction,” and “*X-o-suru* construction” is influenced by the nominal or verbal features of English, and that such words are categorized as a Japanese gerund with both nominal and verbal syntactic features.

Keywords: English loanwords, *X-suru* construction, adjective + *X* construction, *X-o-suru* construction Japanese gerund